

D—1 成果と課題

子ども達の活動の様子

これまでに簡単なインタビューは経験している子ども達であったが、やはり初めはインタビュー原稿を作る段階で一方的な質問しか考えられない子が目立った。しかし、簡単なインタビューのコツ（うなずき、相づち）や関連のある質問を考えさせることにより、内容が改善されていた。一方、「…について〇つの質問をします。」「初めに…、次に…、最後に…」などこれまでに学んだ話

のしかたを取り入れている子も多く、感心させられた。また、1回目の練習の後、互いに評価し助言することで、よりよいインタビューにしようとする意欲が感じられた。そして、ほとんどの子が1回目のインタビューより2回目の方が「うまく質問できた。」「わかりやすく言えた。」という感想であった。敬語などの言葉遣いにも意識が高まったようである。また「相手のことがよくわかってよかった。」「他の人にもインタビューしてみたい。」という意見もあった。

インタビューの活用

実際の子ども達が考えたインタビューはあまり時間がかからなかったため、予定より何度も繰り返し練習する時間があつた。やはり練習すればするほど話し方にも慣れてきて上手になる。ただ、今回はインタビューの練習であるのでそれでよいのかもしれないが、予想外の答えに対する「とっさの一言」や、話が目的からそれないように修正するということは経験を積まないとなかなか難しいことである。国語科だけでなく、総合的な学習などさまざまな活動でも、ここで身につけたインタビューの基本を活用できるように工夫していきたい。

支援と評価の工夫

どんな学習活動においてもよりよい支援をするためには、子ども一人ひとりへの的確な評価が必要となる。しかし、「話すこと・聞くこと」の評価は記録として残しにくいいため非常に難しい。評価規準を明確にもつとともに、日頃の学習の様子から、特に配慮すべき児童を中心に、指導・支援・評価をしていくようにする必要もあるだろう。

	「話すこと・聞くこと」の学習内容 (インタビューに関連のあるもの)
3年	○丁寧な言葉遣いで話す ○簡単なインタビューの準備・しかた
4年	○目的や内容に即して大切なことを考え、相手に正確に分かりやすく話す ○メモをとりながら聞く ○相手に応じた適切な言葉遣いで話す
5年	○相手や場に応じた言葉遣いで用件や自分の考えを話す ○相手の意図を考えながら聞く